

瑞浪市
介護に関するアンケート調査
調査結果報告書
【抜 粋 版】

平成 29 年 6 月

瑞 浪 市

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第7期瑞浪市老人保健福祉計画・介護保険事業計画の策定の基礎調査として活用することを目的に実施しました。

2 調査対象

一般高齢者：瑞浪市在住の65歳以上の方

在宅介護：瑞浪市在住の65歳以上のうち在宅介護をしている世帯

サービス提供事業者：瑞浪市内の介護サービス提供事業者

介護支援専門員：瑞浪市内の介護サービス提供事業者に勤務する介護支援専門員

3 調査期間

平成29年3月17日から平成29年3月31日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般高齢者	1,000通	771通	77.1%
在宅介護	800通	516通	64.5%
サービス提供事業所	49通	41通	83.7%
介護支援専門員	64通	47通	73.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

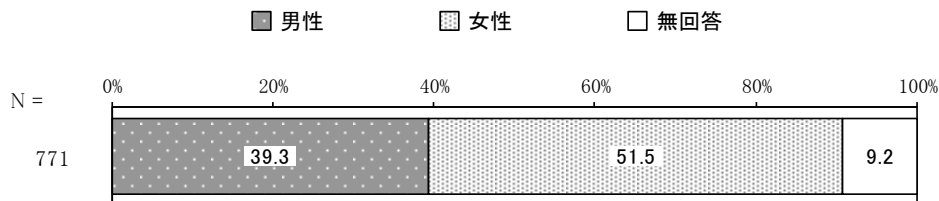
II 調査結果

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

○ 回答者属性

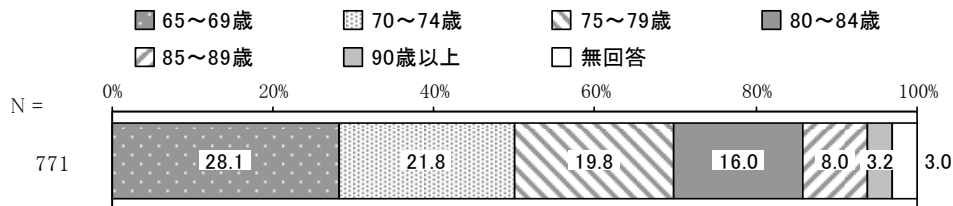
性別

「男性」の割合が39.3%、「女性」の割合が51.5%となっています。



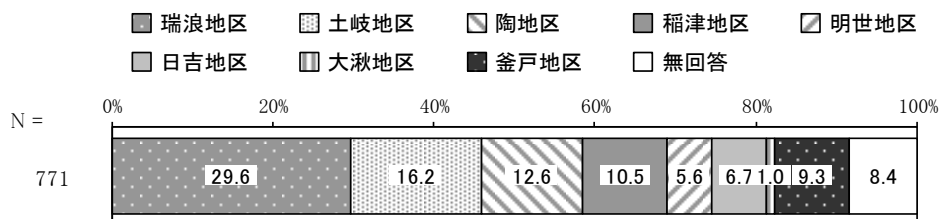
年齢

「65～69歳」の割合が28.1%と最も高く、次いで「70～74歳」の割合が21.8%、「75～79歳」の割合が19.8%となっています。



居住地区

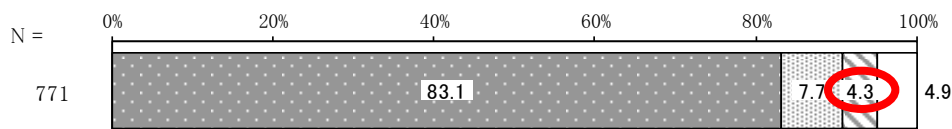
「瑞浪地区」の割合が29.6%と最も高く、次いで「土岐地区」の割合が16.2%、「陶地区」の割合が12.6%となっています。



問 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（1つを選択）

「介護・介助は必要ない」の割合が83.1%と最も高く、一方で「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が4.3%となっています。

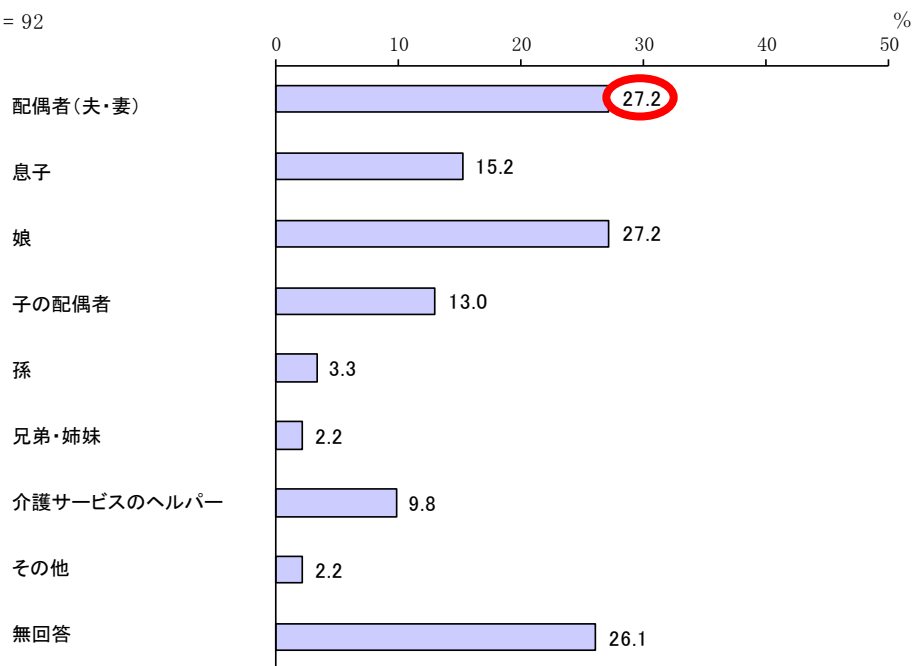
- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)
- 無回答



問 主にどなたの介護、介助を受けていますか（複数選択可）

「配偶者（夫・妻）」、「娘」の割合が 27.2%と最も高く、次いで、「息子」の割合が 15.2%となっています。

N = 92

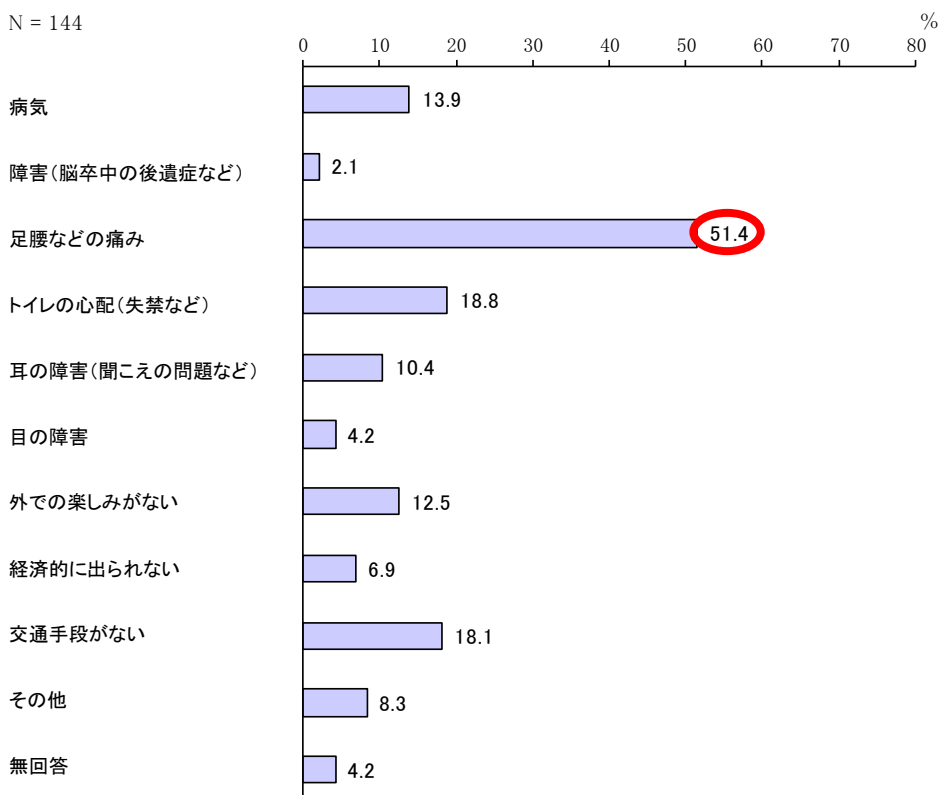


○ からだを動かすことについて

問 外出を控えている理由は、次のどれですか（複数選択可）

「足腰などの痛み」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「トイレの心配（失禁など）」の割合が 18.8%、「交通手段がない」の割合が 18.1%となっています。

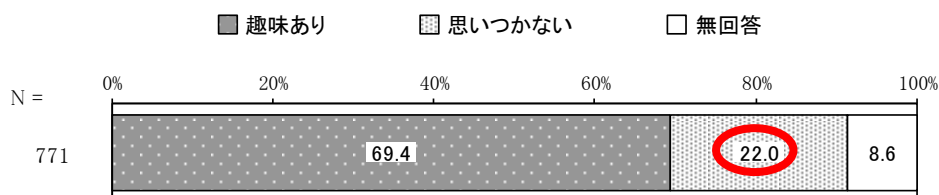
N = 144



○ 毎日の生活について

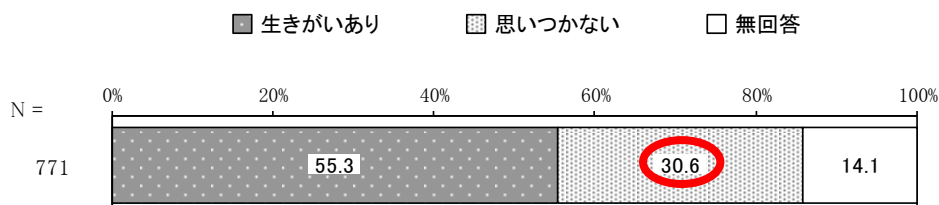
問 趣味はありますか。(1つを選択)

「趣味あり」の割合が69.4%、「思いつかない」の割合が22.0%となっています。



問 生きがいはありますか。(1つを選択)

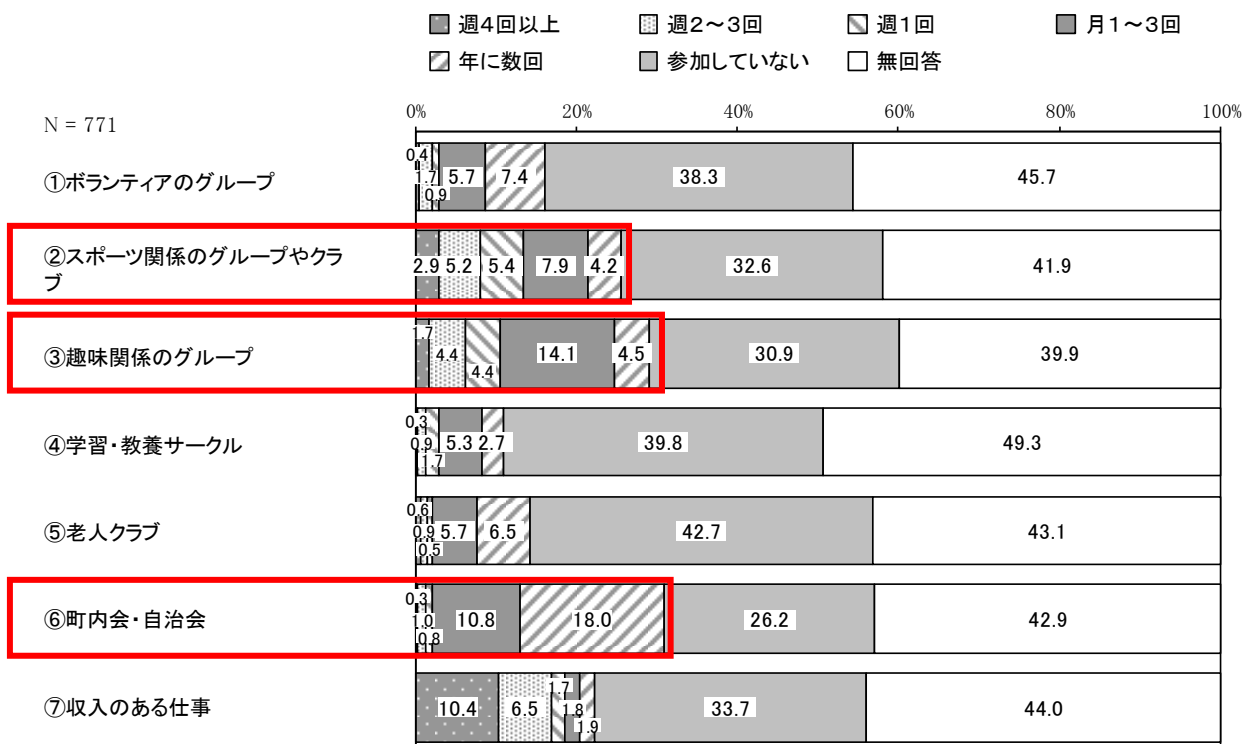
「生きがいあり」の割合が55.3%、「思いつかない」の割合が30.6%となっています。



○ 地域での活動について

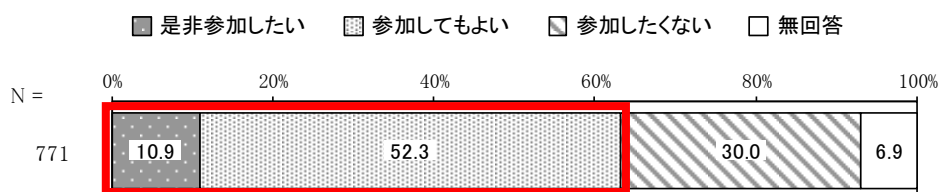
問 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①～⑦それぞれ1つを選択

②スポーツ関係のグループやクラブ、③趣味関係のグループ、⑥町内会・自治会で、参加状況が他の活動に比べ高くなっています。



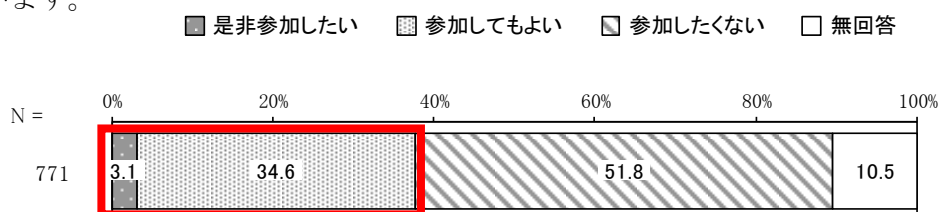
問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（1つを選択）

「参加してもよい」の割合が52.3%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が30.0%、「是非参加したい」の割合が10.9%となっています。



問 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（1つを選択）

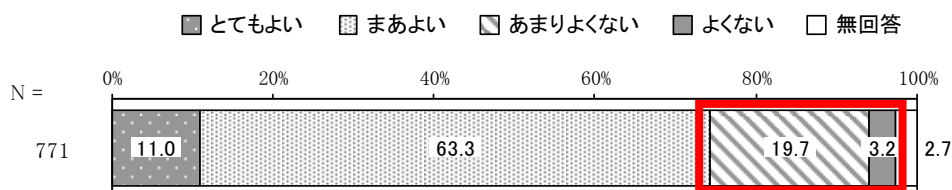
「参加したくない」の割合が51.8%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が34.6%となっています。



○ 健康について

問 現在のあなたの健康状態はいかがですか（1つを選択）

「とてもよい」と「まあよい」をあわせた“よい”の割合が74.3%、「あまりよくない」と「よくない」をあわせた“よくない”の割合が22.9%となっています。



2 生活機能評価等に関する分析

(1) 機能別リスク該当者割合の分析

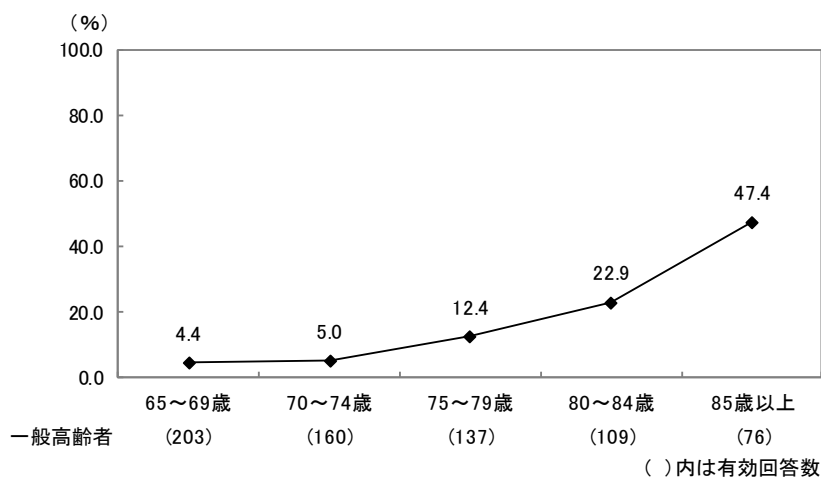
①運動器

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
15分位続けて歩いていますか。	3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

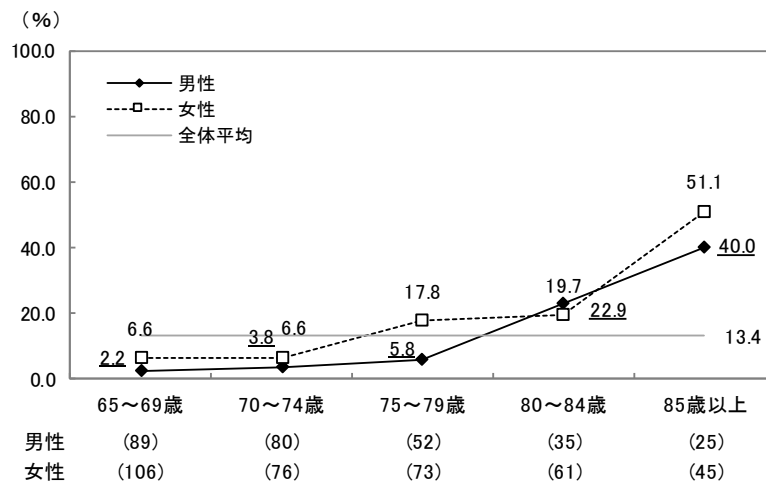
国の手引きに基づく運動器の評価結果をみると、年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加しています。特に85歳以上で割合の増加が大きくなり、85歳以上では47.4%と、80～84歳に比べ、24.5ポイント高くなっています。



全体平均では、13.4%が運動器の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、80～84歳を除いて女性が男性を上回っています。また、女性では75～79歳で、男性では80～84歳で全体平均を上回っています。

【性別・年齢階級別】



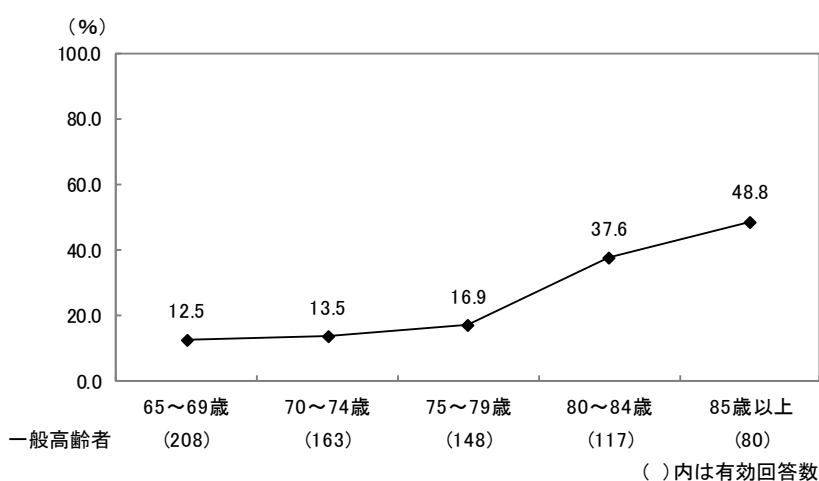
②閉じこもり

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

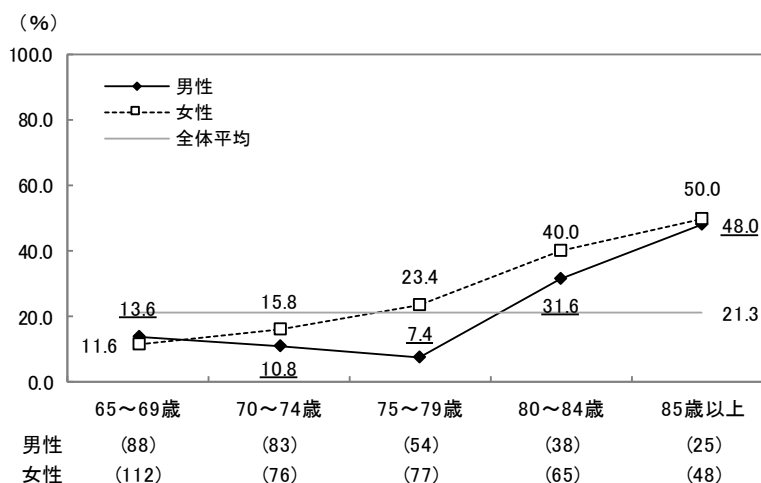
国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加しています。特に80～84歳で割合の増加が大きくなり、80～84歳では37.6%と、75～79歳に比べ、20.7ポイント高くなっています。



全体平均では、21.3%が閉じこもりの機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、65～69歳を除いて女性が男性を上回っています。また、75～79歳で、女性が男性を大きく上回り、その差は16.0ポイントとなっています。

【性別・年齢階級別】



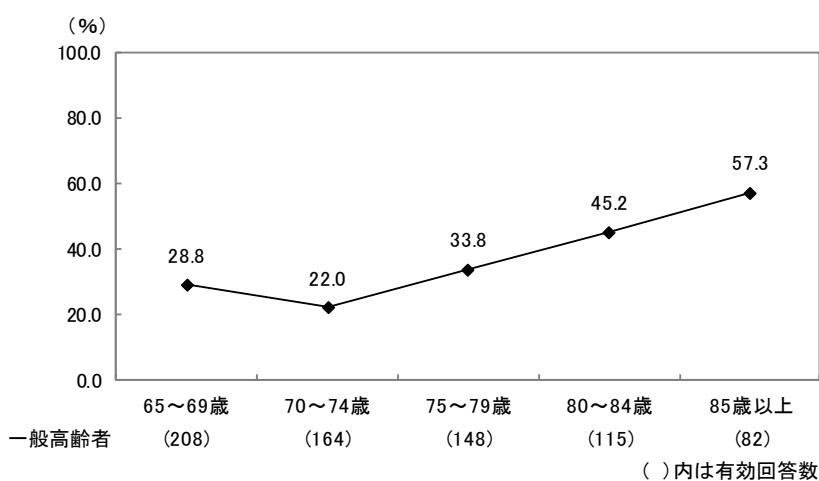
③転倒

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

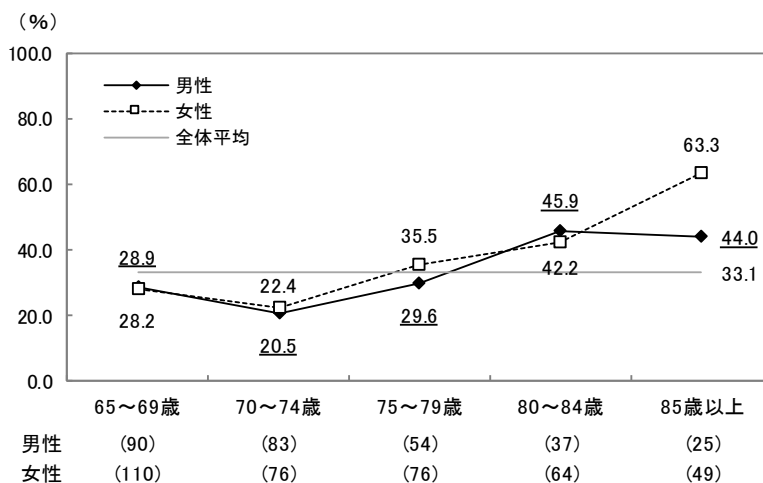
国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加する傾向にあります。



全体平均では、33.1%が転倒の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、65～69歳、80～84歳を除いて女性が男性を上回っています。また、85歳以上で、女性が男性を大きく上回り、その差は19.3ポイントとなっています。

【性別・年齢階級別】



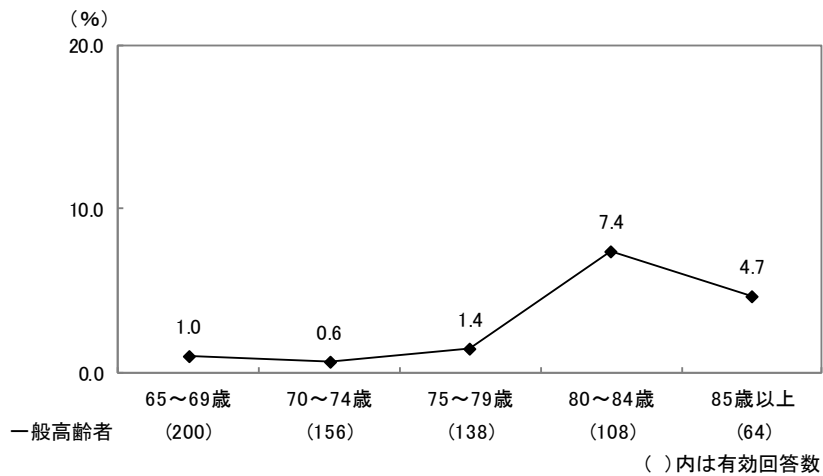
④栄養

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい

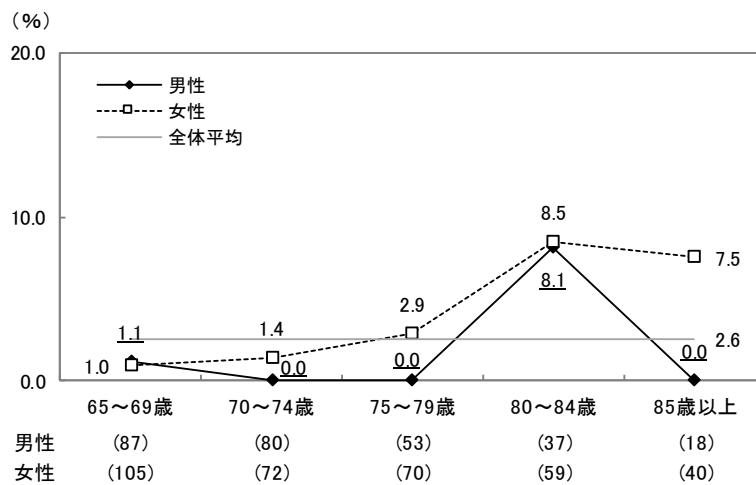
国の手引きに基づく栄養の評価結果をみると、80～84歳で7.4%となっており、すべての年齢階級で割合が低くなっています。



全体平均では、2.6%が栄養の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、大きな差異はみられません。

【性別・年齢階級別】



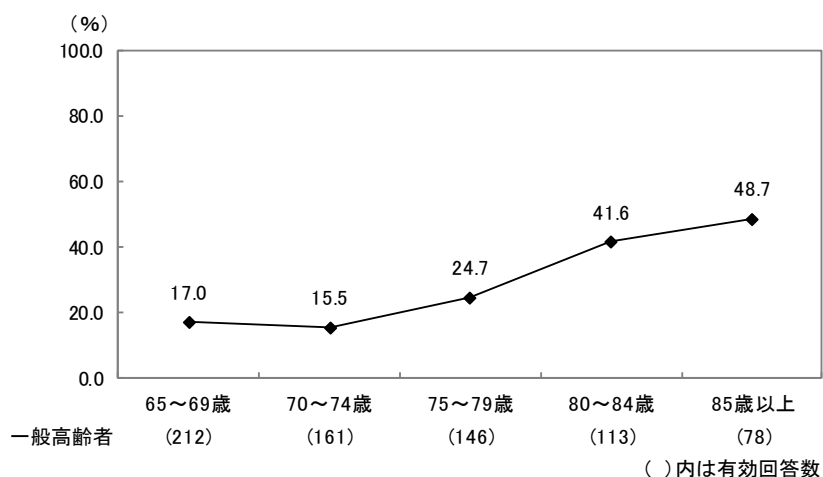
⑤口腔

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
口の渇きが気になりますか。	1. はい

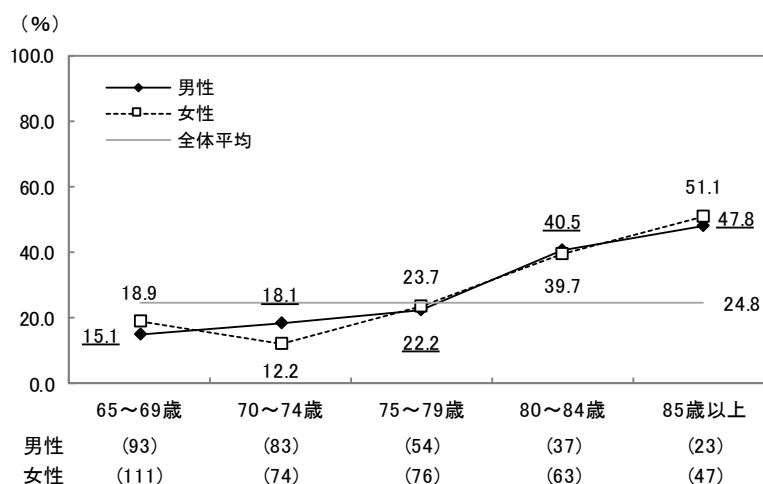
国の手引きに基づく口腔の評価結果をみると、年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加する傾向にあります。特に80～84歳で割合の増加が大きくなり、80～84歳では41.6%と、75～79歳に比べ、16.9ポイント高くなっています。



全体平均では、24.8%が口腔の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男女ともに年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加する傾向にあります。

【性別・年齢階級別】



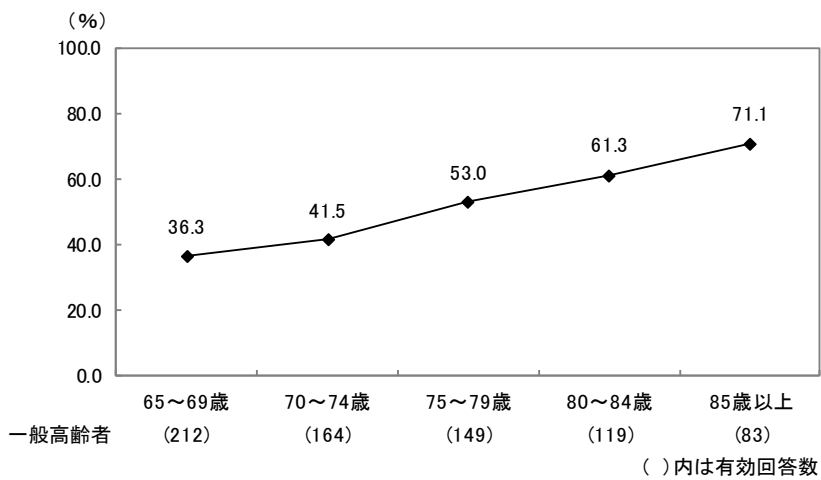
⑥認知

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか。	1. はい

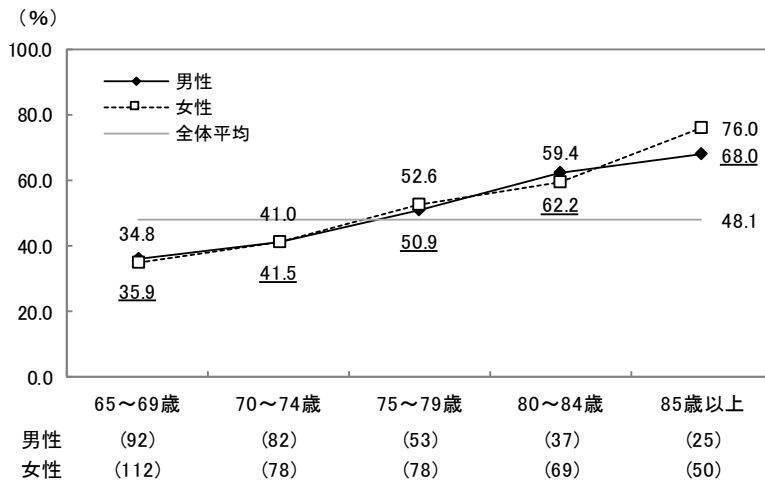
国の手引きに基づく認知の評価結果をみると、年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加しています。



全体平均では、48.1%が認知の機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男女ともに年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加しています。

【性別・年齢階級別】



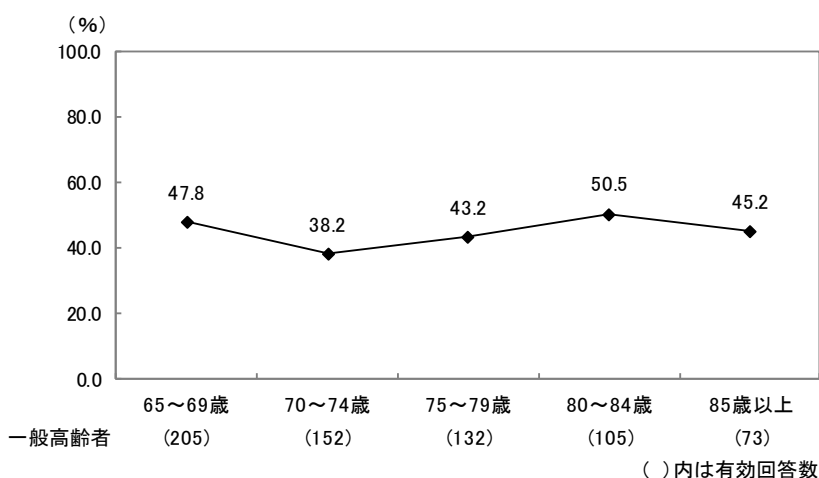
⑦うつ

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

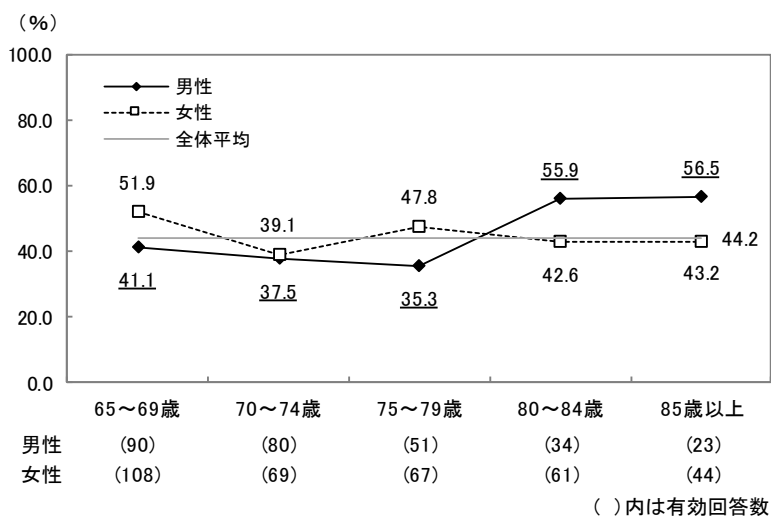
国の手引きに基づくうつの評価結果をみると、4割前後で概ね横ばいで推移しています。



全体平均では、44.2%がうつの機能低下該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性では、80~84歳で割合が増加し、80~84歳で55.9%と、75~79歳に比べ20.6ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



(2) 日常生活

①手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度 (IADL) に関する設問が5問あり、「手段的自立度 (IADL)」として尺度化されています。

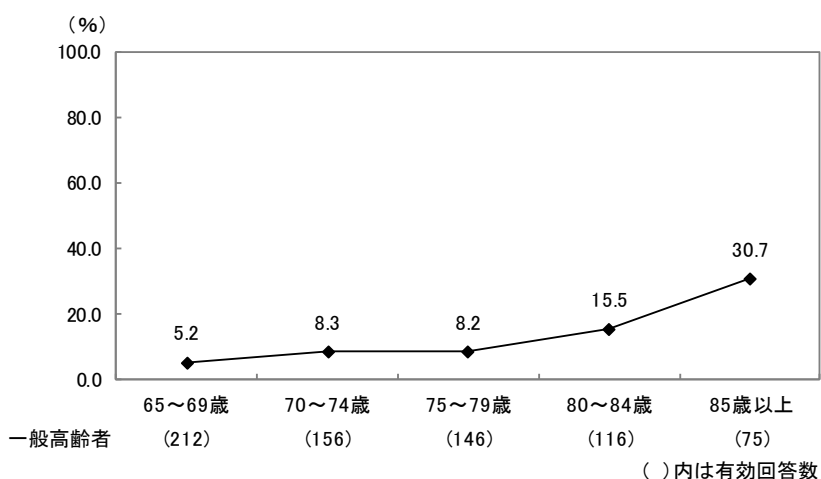
評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点

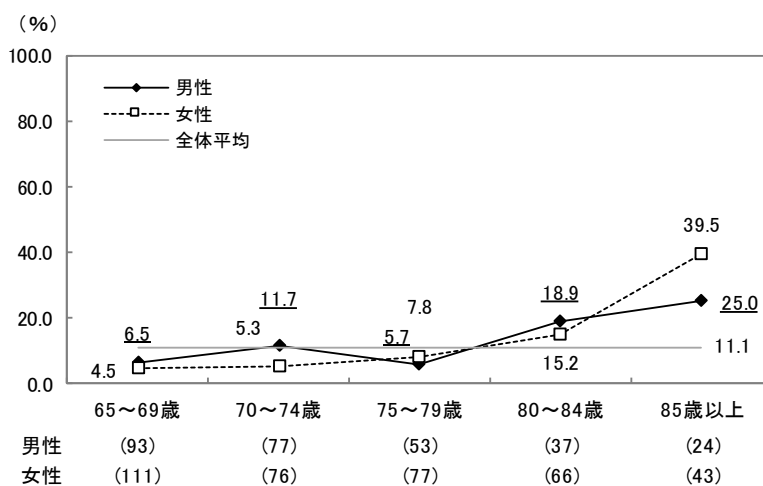
手段的自立度 (IADL) の評価結果をみると、年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加する傾向にあります。特に85歳以上で割合の増加が大きくなり、85歳以上では30.7%と、80～84歳に比べ、15.2ポイント高くなっています。



全体平均では、11.1%が手段的自立度（IADL）の低下者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男女ともに年齢階級が高くなるにつれ、リスク該当の割合が増加する傾向にあります。特に女性の85歳以上で割合の増加が大きくなり、85歳以上では39.5%と、80～84歳に比べ、24.3ポイント高くなっています。

【性別・年齢階級別】



(3) 社会参加

① 知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問あり、「知的能動性」として尺度化されています。

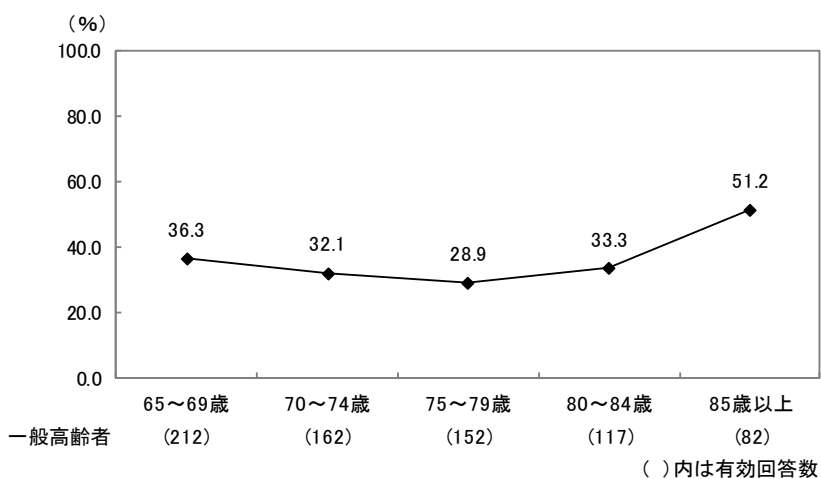
評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1. はい：1点
新聞を読んでいますか。	1. はい：1点
本や雑誌を読んでいますか。	1. はい：1点
健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい：1点

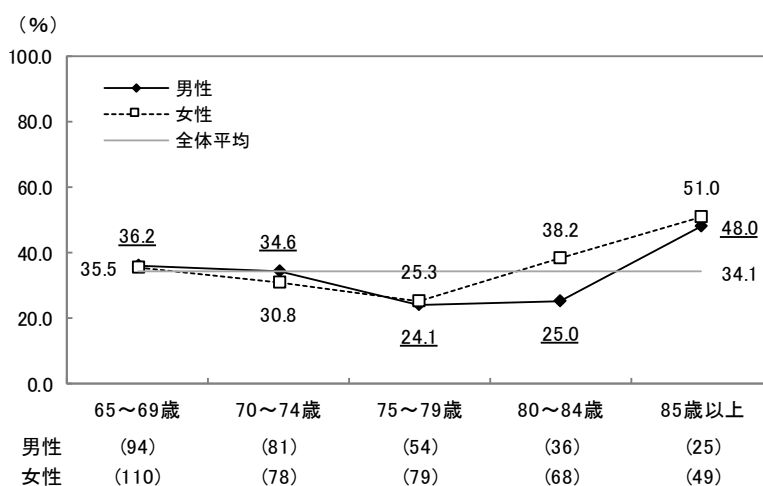
知的能動性の評価結果をみると、85歳以上で51.2%と、80～84歳に比べ、17.9ポイント高くなっています。



全体平均では、34.1%が知的能動性の低下者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男女ともに75～79歳以降で増加傾向にあり、特に男性の85歳以上で48.0%と、80～84歳に比べ、23.0ポイント高くなっています。

【性別・年齢階級別】



②社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されています。

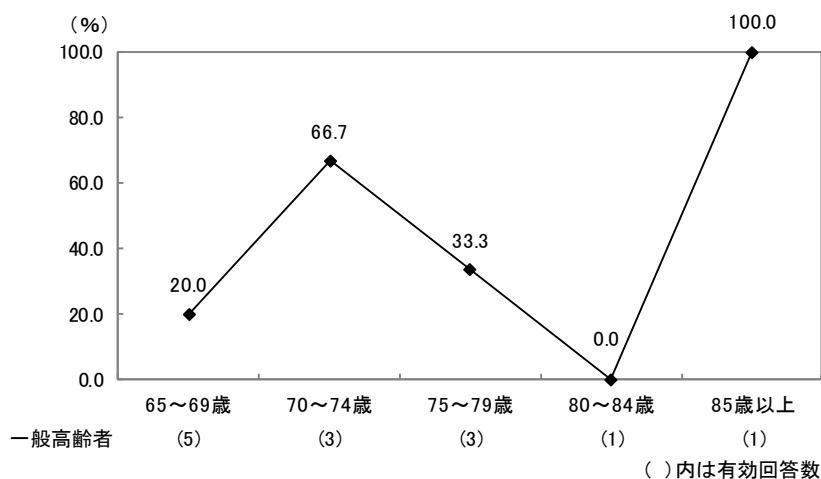
評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を社会的役割の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

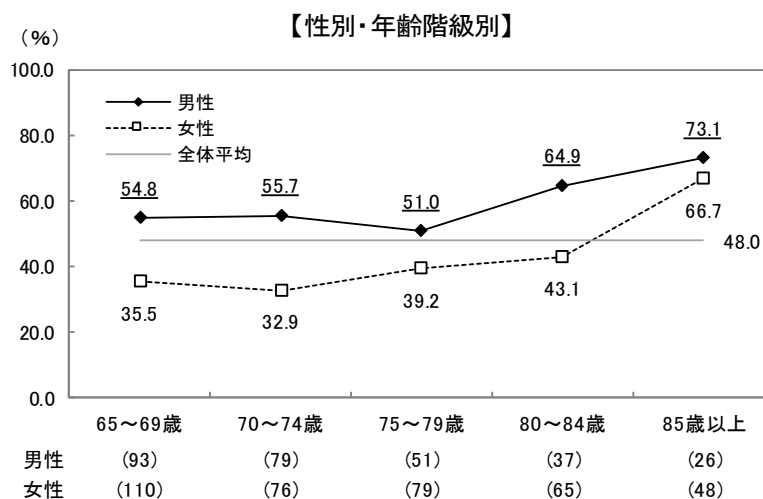
設問	該当する選択肢
友人の家を訪ねていますか。	1. はい：1点
家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい：1点
病人を見舞うことができますか。	1. はい：1点
若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい：1点

社会的役割の評価結果をみると、有効回答数が少ないため、コメントは差し控えます。



全体平均では、48.0%が社会的役割の低下者となっています。

性別・年齢階級別にみると、すべての年齢階級で男性が女性を上回っています。また、年齢階級が高くなるにつれて男性と女性の差が縮まっており、85歳以上では6.4ポイントとなっています。



3 在宅介護実態調査

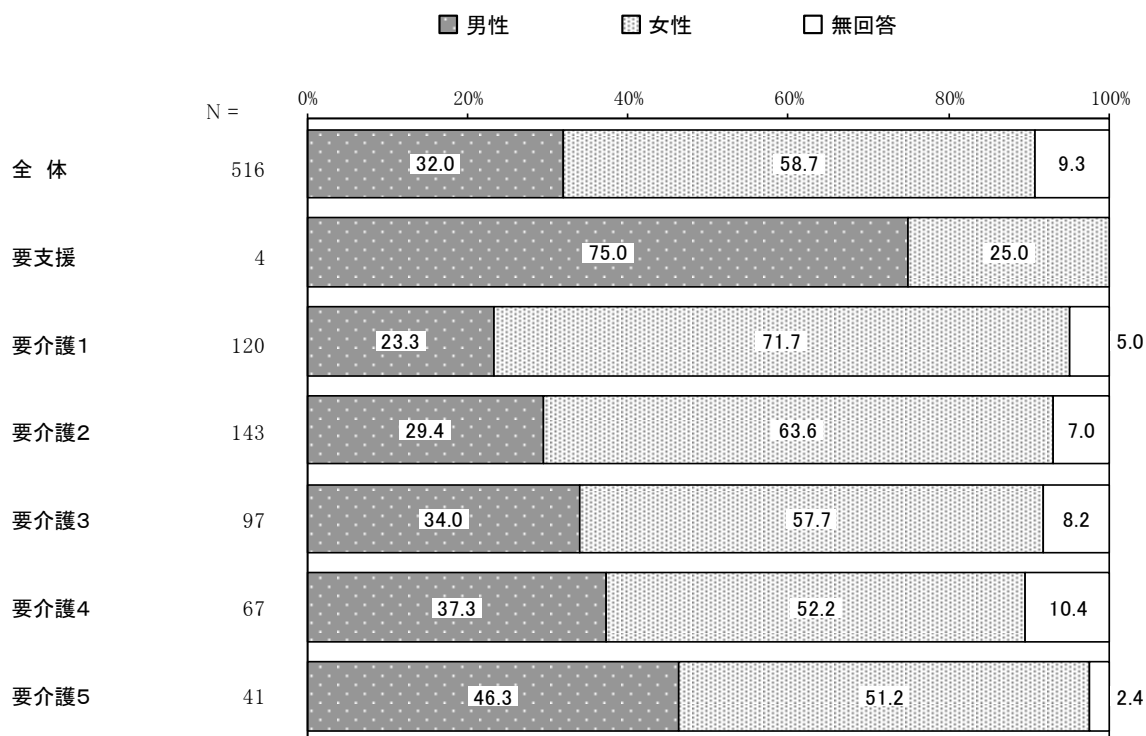
○ 回答者属性

あて名のご本人の情報を記入してください。

① 性別

性別「男性」の割合が32.0%、「女性」の割合が58.7%となっています。

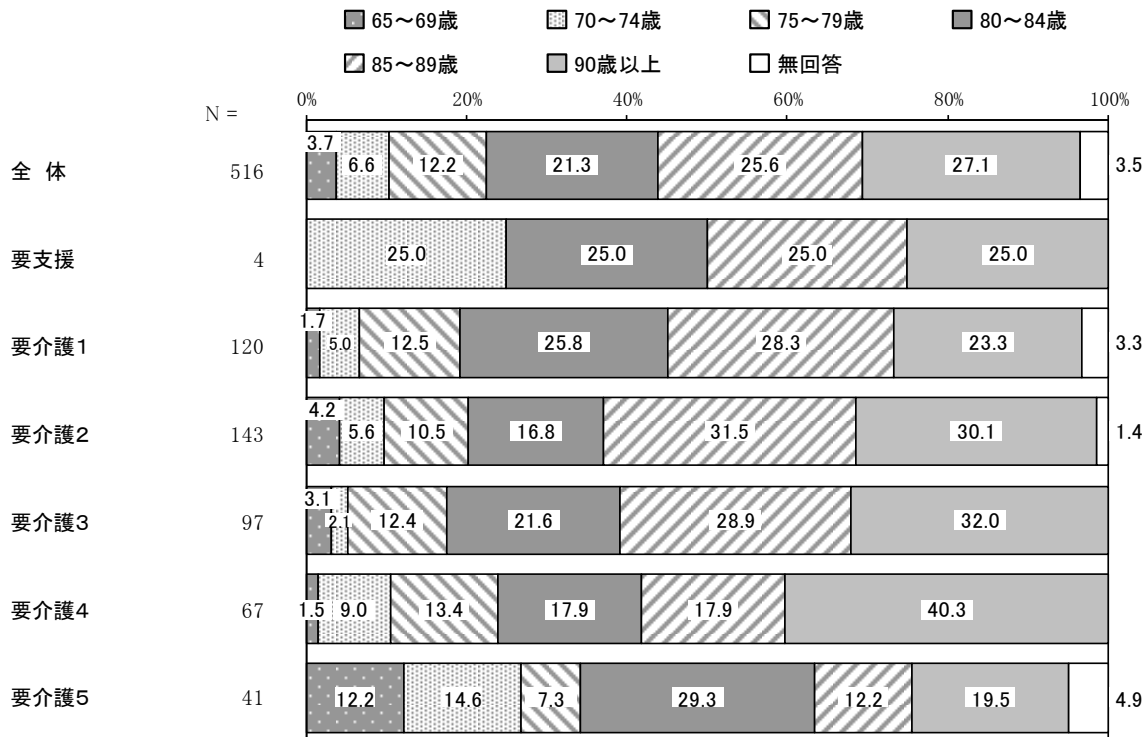
要介護度別で見ると、他に比べ、要介護1で「女性」の割合が高くなっています。また、要介護5で「男性」の割合が高くなっています。



② 年齢

「90歳以上」の割合が27.1%と最も高く、次いで「85～89歳」の割合が25.6%、「80～84歳」の割合が21.3%となっています。

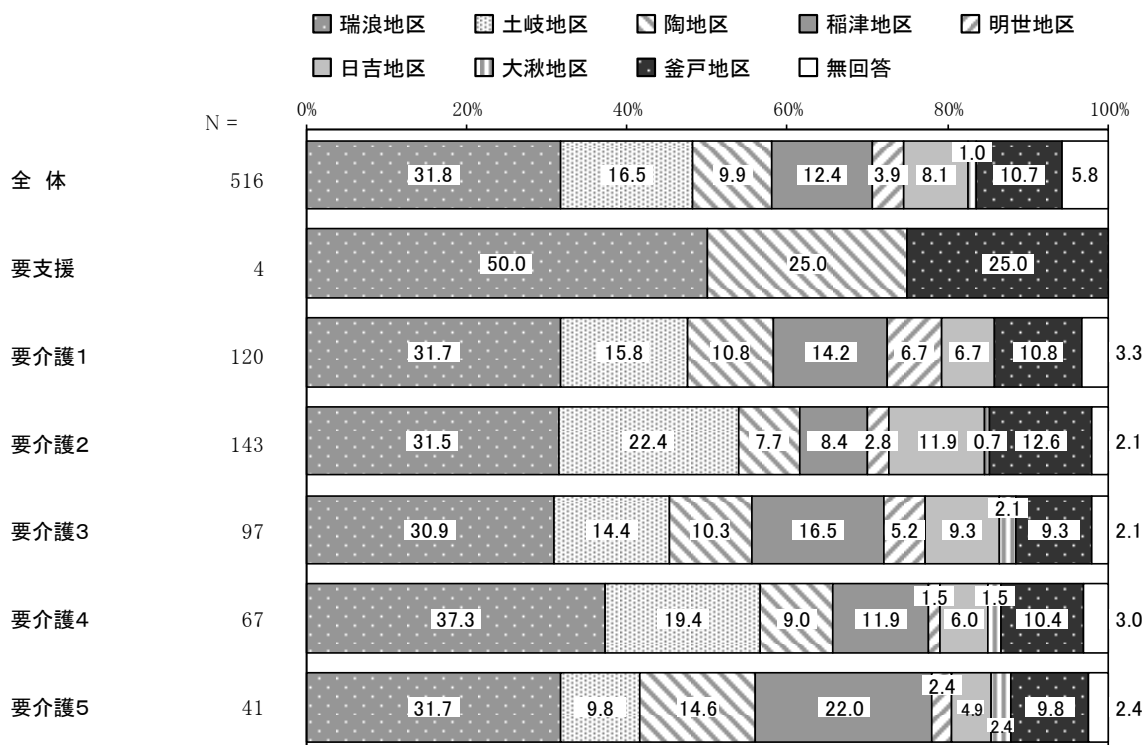
要介護度別でみると、他に比べ、要介護4で「90歳以上」の割合が高くなっています。また、要介護5で「65～69歳」「70～74歳」の割合が高くなっています。



④ 居住地区

「瑞浪地区」の割合が31.8%と最も高く、次いで「土岐地区」の割合が16.5%、「稲津地区」の割合が12.4%となっています。

要介護度別でみると、他に比べ、要介護5で「稲津地区」の割合が高くなっています。



○ 家族や生活状況について

問 ご本人（実態調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください
（複数選択可）

「認知症」の割合が49.2%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が19.2%、「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が17.6%となっています。

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護3で「心疾患（心臓病）」「呼吸器疾患」の割合が高くなっています。また、要介護5で「糖尿病」の割合が、要介護5で「糖尿病」の割合が高くなっています。

単位：%

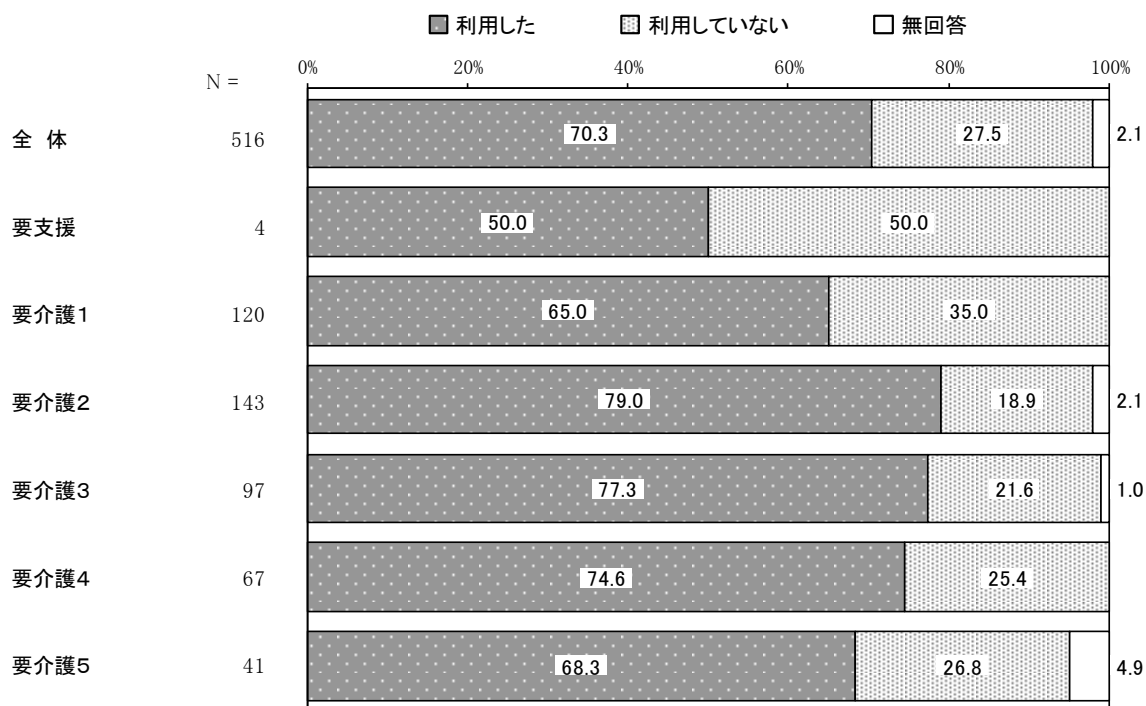
区分	有効回答数（件）	脳血管疾患（脳卒中）	心疾患（心臓病）	悪性新生物（がん）	呼吸器疾患	腎疾患（透析）	筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	膠原病（関節リウマチ含む）	変形性関節疾患
全体	516	17.6	13.4	3.9	6.6	3.5	13.4	2.7	10.1
要支援	4	—	—	25.0	—	—	—	—	—
要介護1	120	10.0	10.8	2.5	2.5	1.7	13.3	0.8	9.2
要介護2	143	14.0	11.2	2.8	7.7	2.8	13.3	6.3	15.4
要介護3	97	21.6	21.6	3.1	13.4	7.2	16.5	—	5.2
要介護4	67	28.4	16.4	9.0	6.0	4.5	13.4	4.5	11.9
要介護5	41	26.8	12.2	4.9	4.9	4.9	9.8	—	7.3

区分	認知症	パーキンソン病	難病（パーキンソン病を除く）	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	その他	なし	わからない	無回答
全体	49.2	3.9	1.4	13.4	19.2	20.9	3.5	0.6	2.7
要支援	25.0	—	—	25.0	25.0	—	50.0	—	—
要介護1	57.5	1.7	—	11.7	20.8	28.3	2.5	0.8	0.8
要介護2	46.9	3.5	0.7	15.4	21.0	19.6	4.2	1.4	—
要介護3	52.6	4.1	3.1	11.3	13.4	22.7	—	—	1.0
要介護4	49.3	9.0	—	6.0	20.9	13.4	4.5	—	—
要介護5	43.9	7.3	7.3	26.8	14.6	31.7	2.4	—	—

○ 介護予防・介護サービス等について

問 平成 29 年 1 月の 1 か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用しましたか (1 つを選択)

「利用した」の割合が 70.3%、「利用していない」の割合が 27.5%となっています。
要介護度別で見ると、他に比べ、要介護 1 で「利用していない」の割合が高くなっています。



問 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください (複数選択可)

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護 5 で「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)	移送サービス (介護・福祉タクシー等)	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	516	3.1	1.7	2.1	1.7	2.1	3.5	3.7	4.1	2.3	2.3	61.4	23.3
要支援	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0
要介護 1	120	5.8	2.5	1.7	1.7	1.7	4.2	0.8	5.0	0.8	2.5	61.7	23.3
要介護 2	143	2.1	1.4	1.4	2.8	2.8	4.2	2.1	6.3	4.2	2.8	60.8	21.7
要介護 3	97	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	3.1	4.1	2.1	2.1	—	62.9	28.9
要介護 4	67	1.5	1.5	3.0	—	1.5	—	4.5	3.0	—	3.0	67.2	19.4
要介護 5	41	2.4	—	2.4	—	—	—	14.6	2.4	—	4.9	63.4	14.6

問 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください
（複数選択可）

「利用していない」の割合が33.1%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」の割合が14.9%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が13.8%、「外出同行（通院、買い物など）」の割合が11.4%となっています。

要介護度別でみると、他に比べ、要介護1で「見守り、声かけ」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	移送サービス(介護・福祉タクシー等)	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	516	8.3	5.8	6.4	4.1	4.3	11.4	13.8	14.9	6.0	5.0	33.1	27.3
要支援	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25.0	75.0
要介護1	120	12.5	5.8	6.7	5.0	6.7	14.2	10.8	24.2	9.2	5.0	30.8	23.3
要介護2	143	8.4	4.9	7.0	4.9	4.2	14.0	15.4	14.0	5.6	4.9	34.3	25.2
要介護3	97	7.2	8.2	7.2	6.2	6.2	12.4	12.4	14.4	8.2	—	34.0	32.0
要介護4	67	3.0	6.0	3.0	—	—	4.5	17.9	7.5	—	9.0	35.8	26.9
要介護5	41	9.8	4.9	2.4	—	2.4	12.2	22.0	12.2	4.9	12.2	26.8	22.0

【地区別】

地区別でみると、土岐地区、陶地区で「見守り、声かけ」の割合が高く、稲津地区、明世地区、日吉地区で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高くなっています。

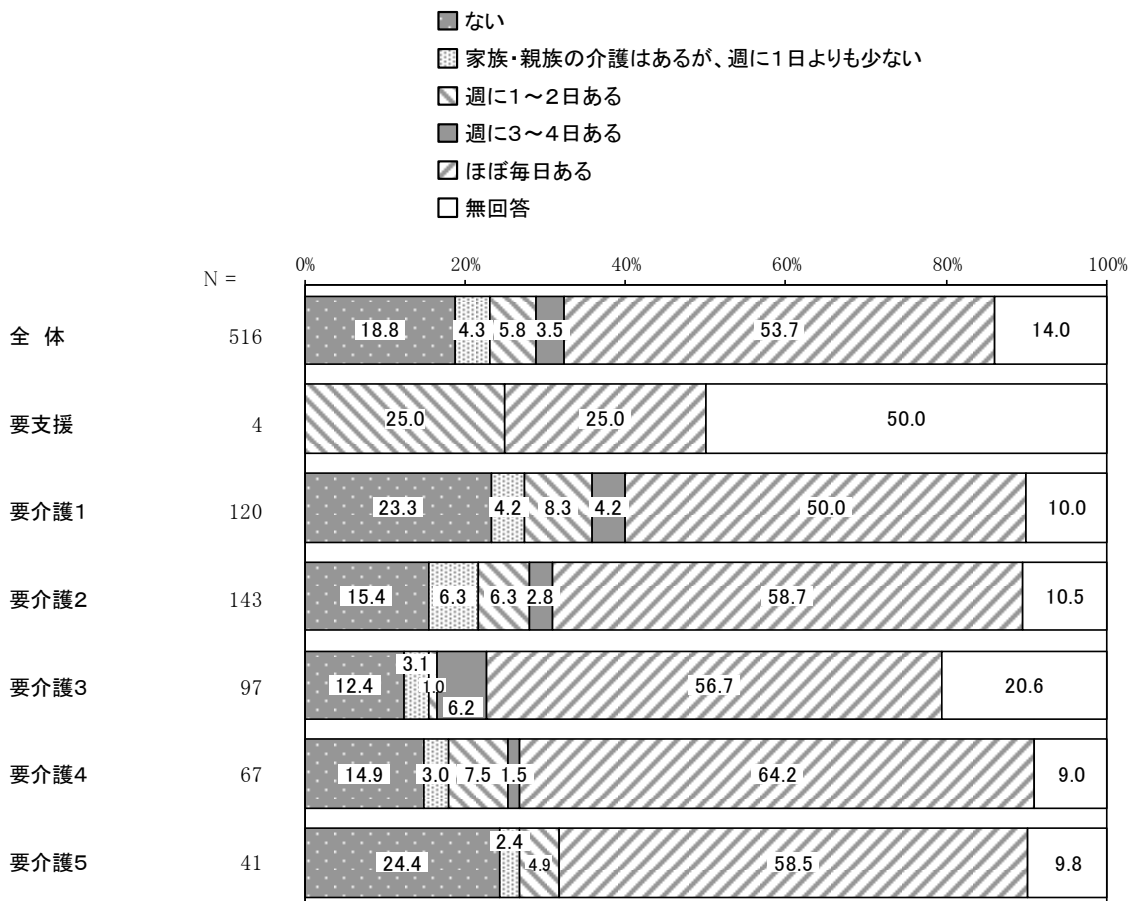
単位：%

区分	有効回答数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	移送サービス(介護・福祉タクシー等)	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
瑞浪地区	164	7.9	7.3	8.5	3.0	6.1	11.0	10.4	15.2	6.7	6.1	34.8	26.8
土岐地区	85	8.2	5.9	7.1	5.9	2.4	4.7	9.4	18.8	7.1	4.7	38.8	27.1
陶地区	51	5.9	7.8	3.9	3.9	3.9	11.8	15.7	23.5	2.0	7.8	13.7	39.2
稲津地区	64	7.8	4.7	4.7	4.7	4.7	15.6	18.8	12.5	4.7	4.7	35.9	23.4
明世地区	20	15.0	10.0	5.0	5.0	5.0	15.0	20.0	10.0	10.0	5.0	45.0	20.0
日吉地区	42	4.8	4.8	—	4.8	—	16.7	21.4	11.9	11.9	—	23.8	28.6
大湫地区	5	—	—	—	—	—	—	40.0	—	—	—	40.0	20.0
釜戸地区	55	10.9	1.8	9.1	3.6	5.5	16.4	16.4	10.9	1.8	3.6	38.2	20.0

問 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

「ほぼ毎日ある」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「ない」の割合が 18.8%となっています。

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護4で「ほぼ毎日ある」の割合が高くなっています。一方、要介護1、要介護5で「ない」の割合が高くなっています。



○ 主な介護者の方について

問 ご家族やご親族の中で、ご本人（実態調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が64.3%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」の割合が10.7%となっています。

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護3で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	主な介護者が仕事を辞めた (転職除く)	主な介護者以外の 家族・親族が仕事を 辞めた（転職除く）	主な介護者が転職 した	主な介護者以外の 家族・親族が転職し た	介護のために仕事を 辞めた家族・親族 はいない	わからない	無回答
全 体	347	10.7	3.2	2.0	0.6	64.3	3.2	16.1
要支援	2	—	—	—	—	50.0	—	50.0
要介護1	80	7.5	2.5	3.8	—	61.3	2.5	22.5
要介護2	106	10.4	4.7	1.9	—	67.9	3.8	11.3
要介護3	65	16.9	1.5	—	—	64.6	3.1	13.8
要介護4	51	9.8	3.9	2.0	2.0	70.6	3.9	7.8
要介護5	27	11.1	—	—	3.7	70.4	—	14.8

問 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が25.7%と最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が24.3%、「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が21.3%となっています。

要介護度別でみると、他に比べ、要介護4で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」の割合が高くなっています。また、要介護3で「特になし」の割合が高くなっています。

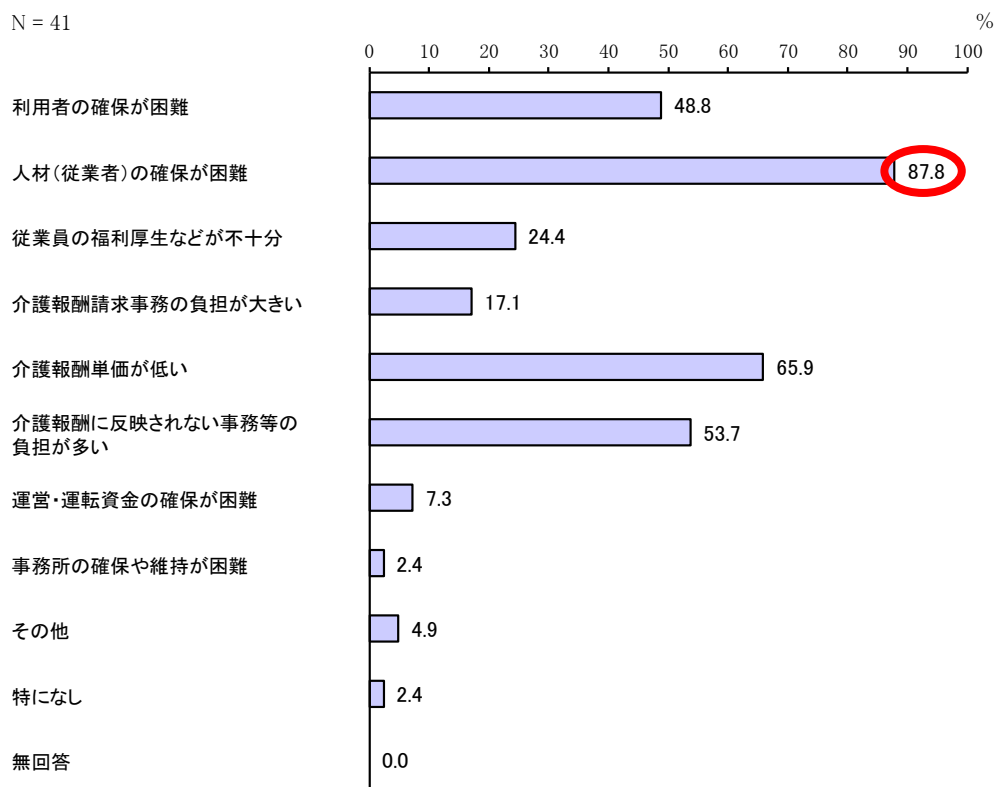
単位：%

区分	有効回答数（件）	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	136	14.0	24.3	21.3	25.7	4.4	11.0	5.9	19.1	4.4	20.6	2.2	5.9
要支援	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要介護1	39	15.4	17.9	12.8	20.5	2.6	5.1	7.7	10.3	10.3	17.9	7.7	10.3
要介護2	44	20.5	20.5	22.7	27.3	6.8	6.8	4.5	22.7	—	15.9	—	6.8
要介護3	23	4.3	26.1	21.7	26.1	—	13.0	—	21.7	4.3	34.8	—	—
要介護4	19	15.8	42.1	15.8	36.8	10.5	21.1	5.3	21.1	—	21.1	—	5.3
要介護5	8	—	25.0	75.0	25.0	—	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5	—	—

4 介護事業所アンケート調査

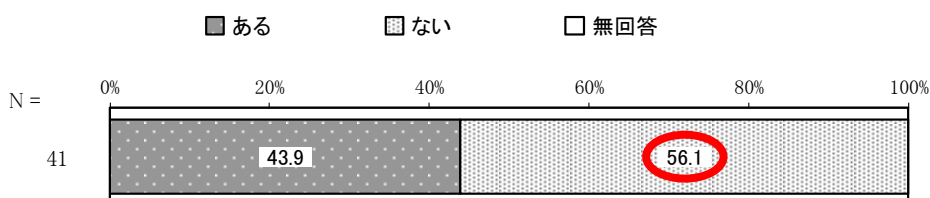
問 介護保険サービス事業を行ううえで、問題点や課題はどれですか。
(〇はいくつでも)

「人材（従業者）の確保が困難」の割合が 87.8%と最も高く、次いで「介護報酬単価が低い」の割合が 65.9%、「介護報酬に反映されない事務等の負担が多い」の割合が 53.7%となっています。



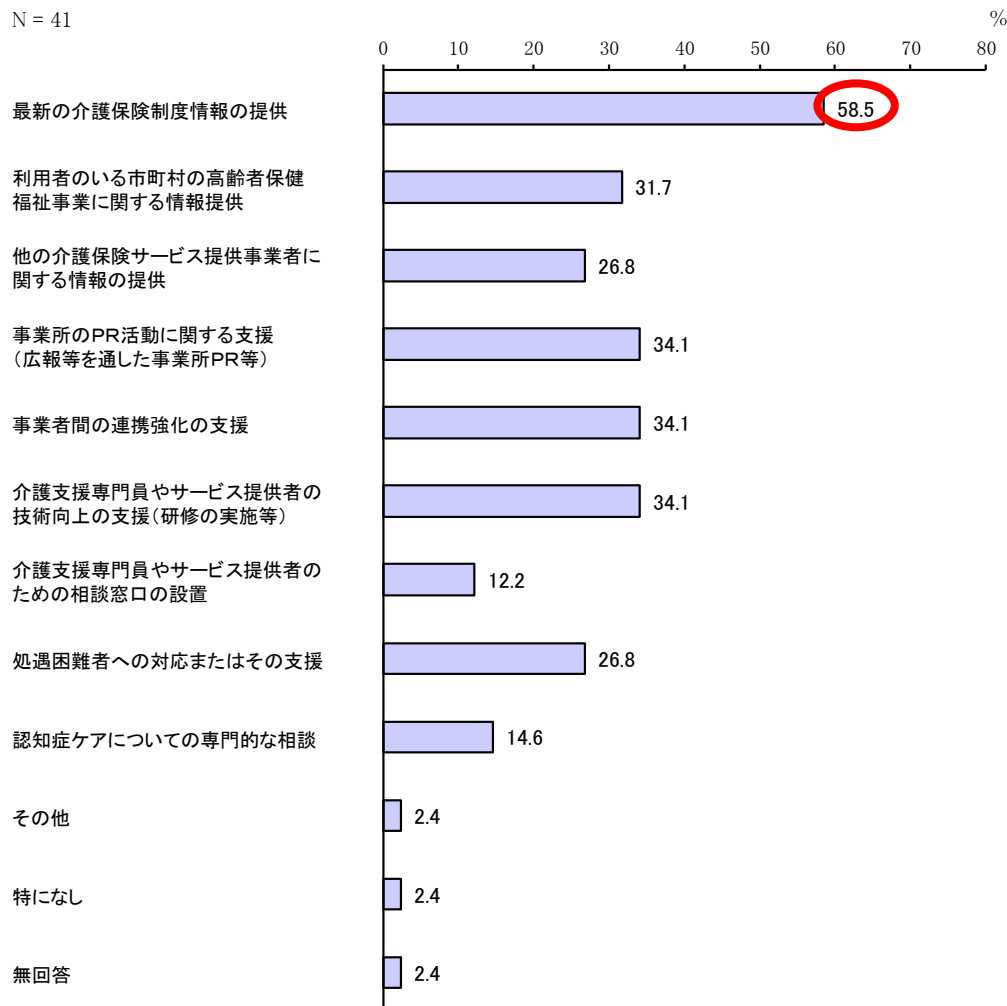
問 貴事業所では、地域包括支援センターに相談等したことがありますか。

「ある」の割合が 43.9%、「ない」の割合が 56.1%となっています。



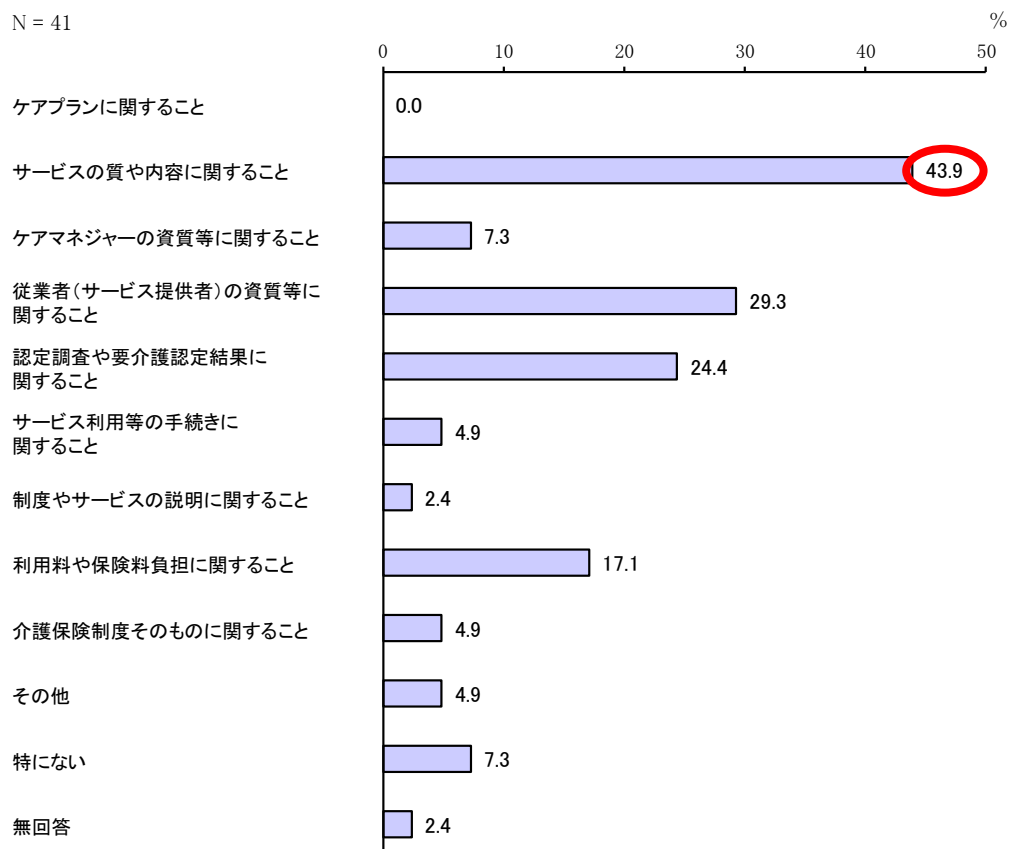
問 介護保険サービス事業を行ううえで、行政に支援等をしてほしいことはどれですか。
(〇はいくつでも)

「最新の介護保険制度情報の提供」の割合が58.5%と最も高く、次いで「事業所のPR活動に関する支援（広報等を通じた事業所PR等）」、「事業者間の連携強化の支援」、「介護支援専門員やサービス提供者の技術向上の支援（研修の実施等）」の割合が34.1%となっています。



問 貴事業所における、利用者や家族からあげられる苦情の内容について、次の中からお答えください。(〇は5つまで)

「サービスの質や内容に関すること」の割合が43.9%と最も高く、次いで「従業者（サービス提供者）の資質等に関すること」の割合が29.3%、「認定調査や要介護認定結果に関すること」の割合が24.4%となっています。

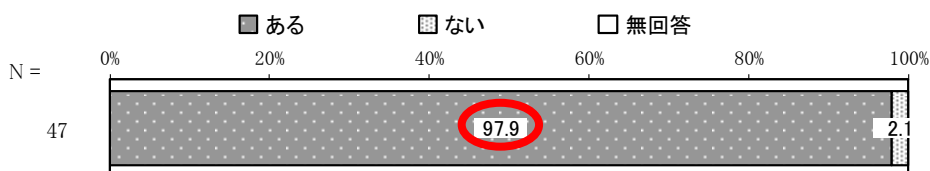


5 介護支援専門員調査

○ ケアプランの作成について

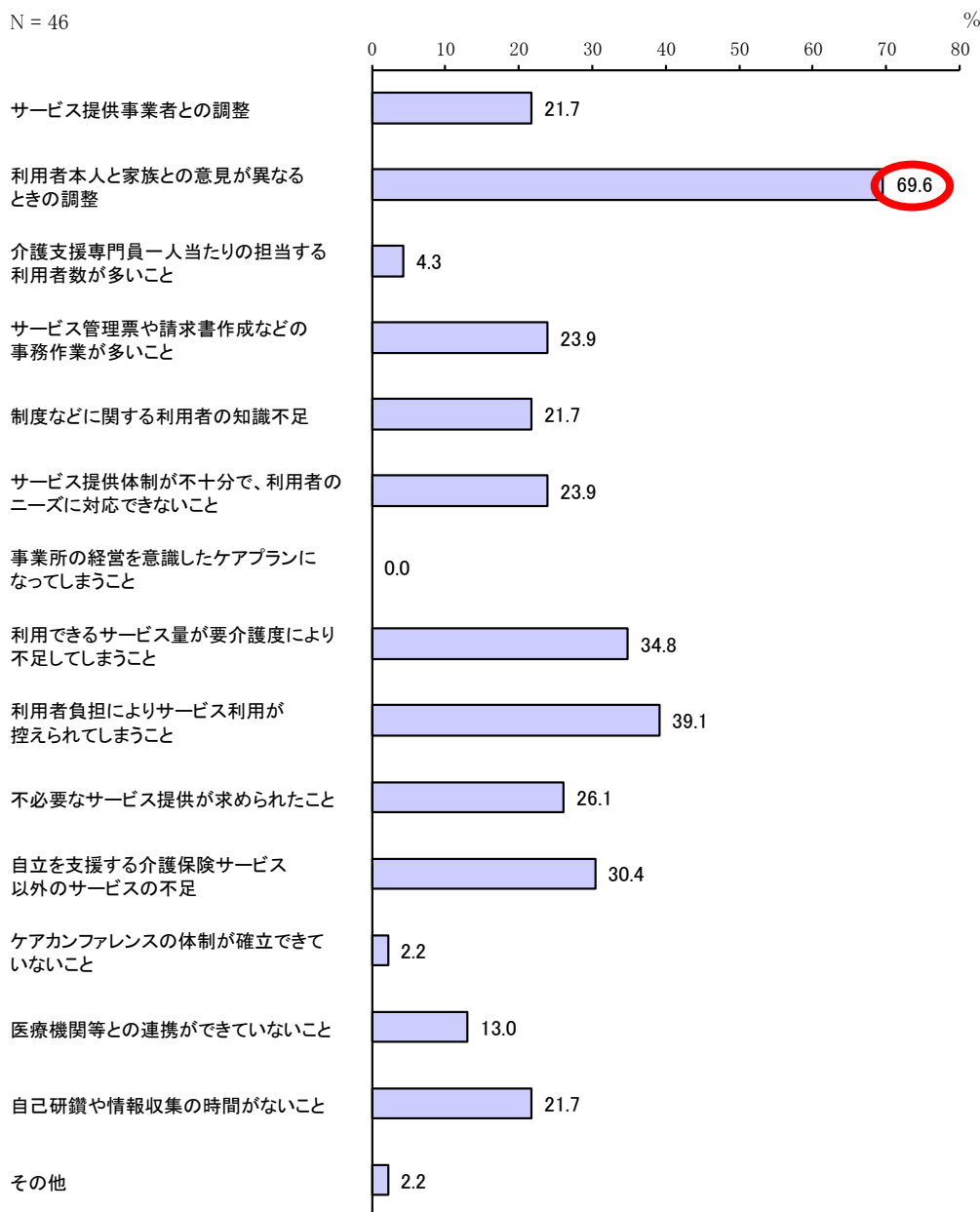
問 ケアプランで困ったことがありますか。

「ある」の割合が97.9%、「ない」の割合が2.1%となっています。



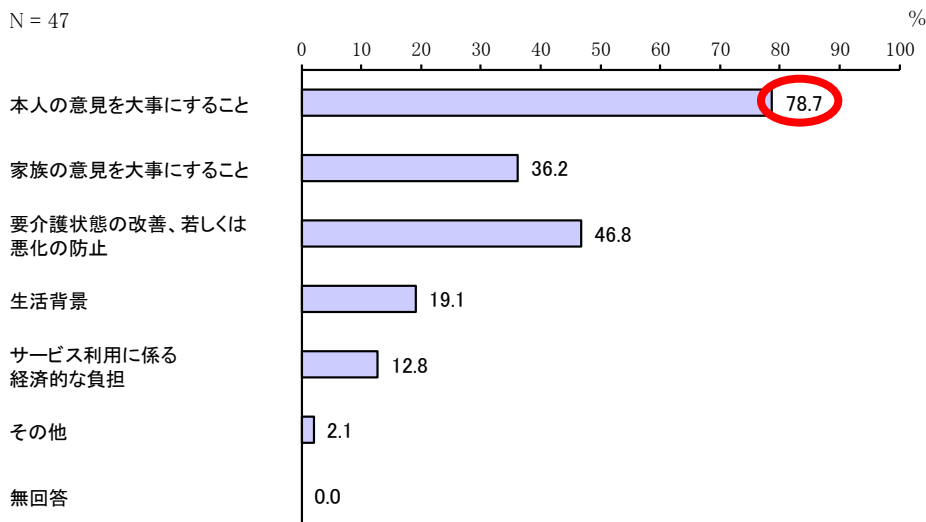
問 困ったことの内容は何ですか。(○は5つまで)

「利用者本人と家族との意見が異なるときの調整」の割合が69.6%と最も高く、次いで「利用者負担によりサービス利用が控えられてしまうこと」の割合が39.1%、「利用できるサービス量が要介護度により不足してしまうこと」の割合が34.8%となっています。



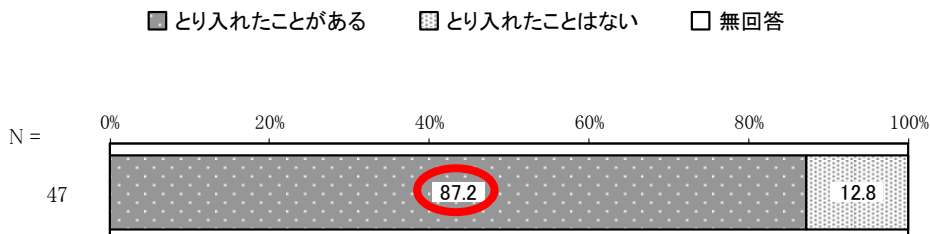
問 ケアプランを立てるにあたり、どのようなことに気をつけていますか。
(○は2つまで)

「本人の意見を大事にすること」の割合が78.7%と最も高く、次いで「要介護状態の改善、若しくは悪化の防止」の割合が46.8%、「家族の意見を大事にすること」の割合が36.2%となっています。



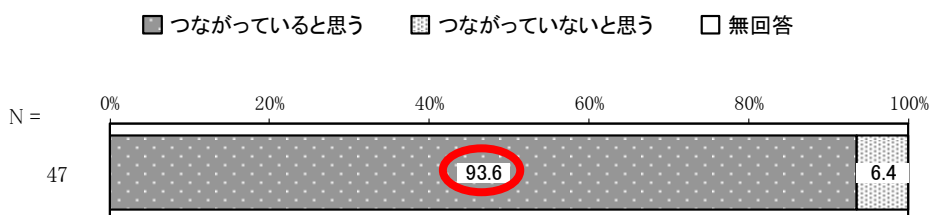
問 ケアプランに介護保険以外のサービスを取り入れていますか。

「とり入れたことがある」の割合が87.2%、「とり入れたことはない」の割合が12.8%となっています。



問 ケアプランが利用者の自立支援につながっていると思いますか。

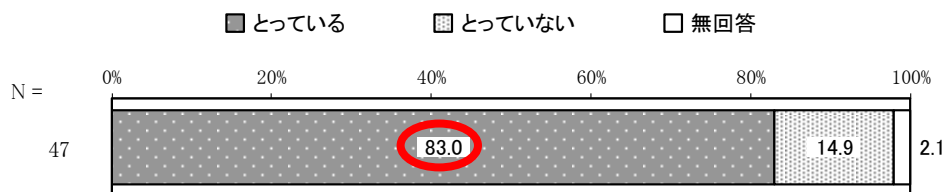
「つながっていると思う」の割合が93.6%、「つながっていないと思う」の割合が6.4%となっています。



○ 業務について

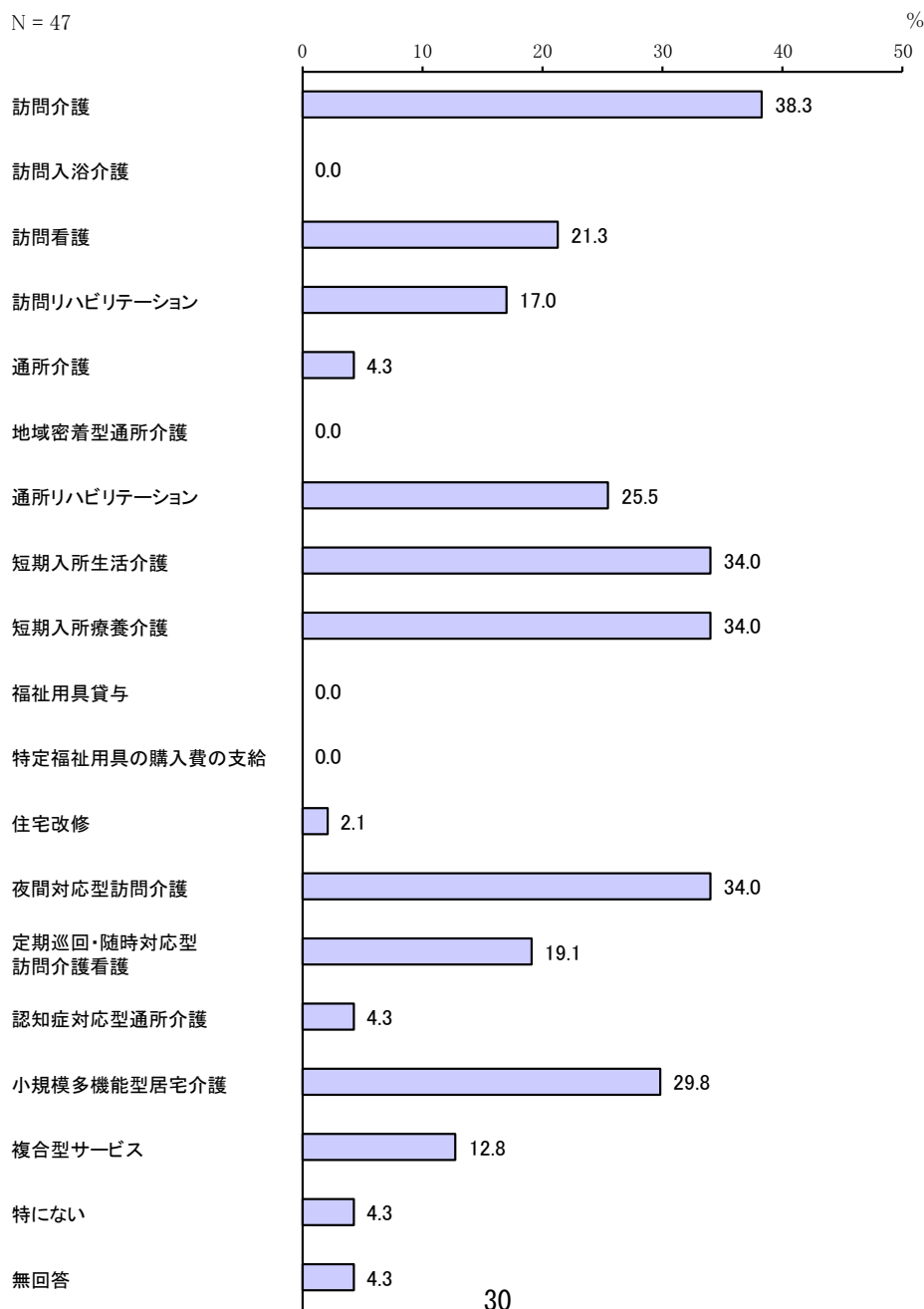
問 介護サービスだけでは処遇が困難な場合、地域包括支援センターと連携をとっていますか。

「とっている」の割合が83.0%、「とっていない」の割合が14.9%となっています。



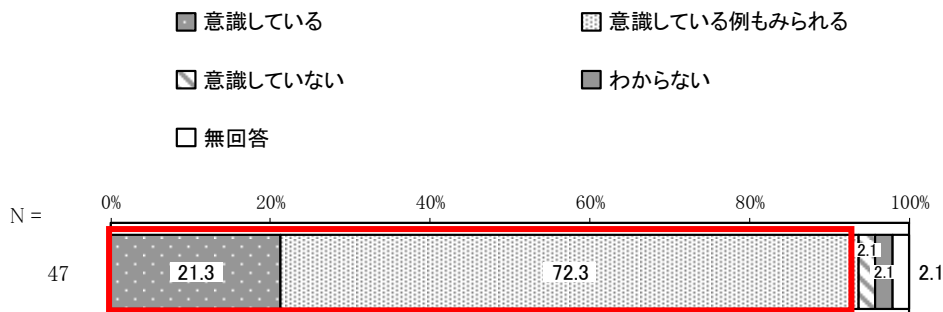
問 介護保険対象の居宅サービスの中で、供給が不足していると感じるサービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「訪問介護」の割合が38.3%と最も高く、次いで「短期入所生活介護」、「短期入所療養介護」、「夜間対応型訪問介護」の割合が34.0%となっています。



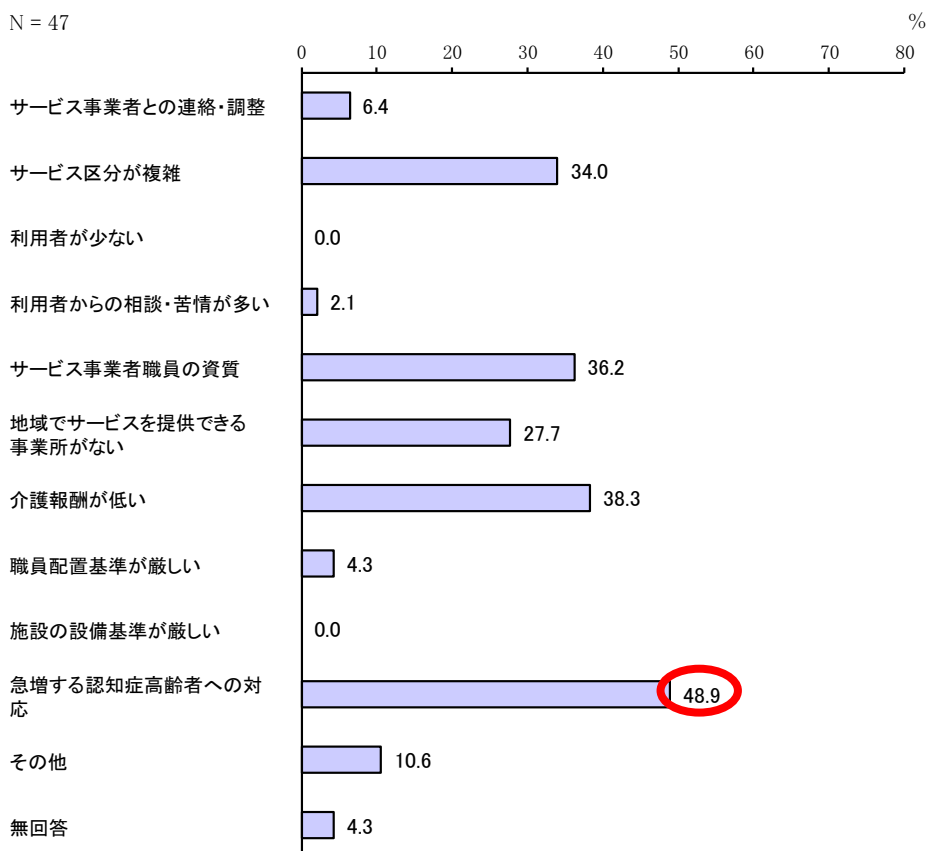
問 利用者は、要介護状態の改善や悪化防止を意識して介護サービスを利用していると思いますか。(〇は1つだけ)

「意識している例もみられる」の割合が72.3%と最も高く、次いで「意識している」の割合が21.3%となっています。



問 介護保険制度の中で問題と感ずることはありますか。(〇は3つまで)

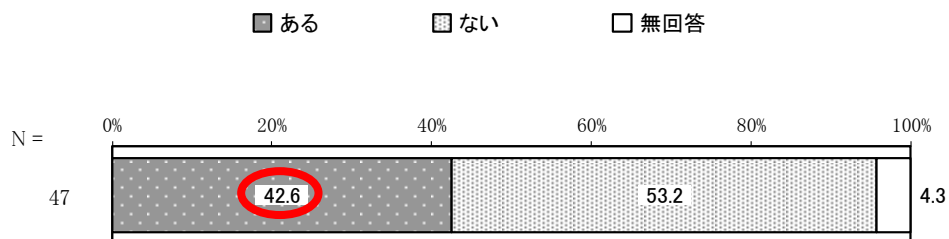
「急増する認知症高齢者への対応」の割合が48.9%と最も高く、次いで「介護報酬が低い」の割合が38.3%、「サービス事業者職員の資質」の割合が36.2%となっています。



○ 高齢者虐待について

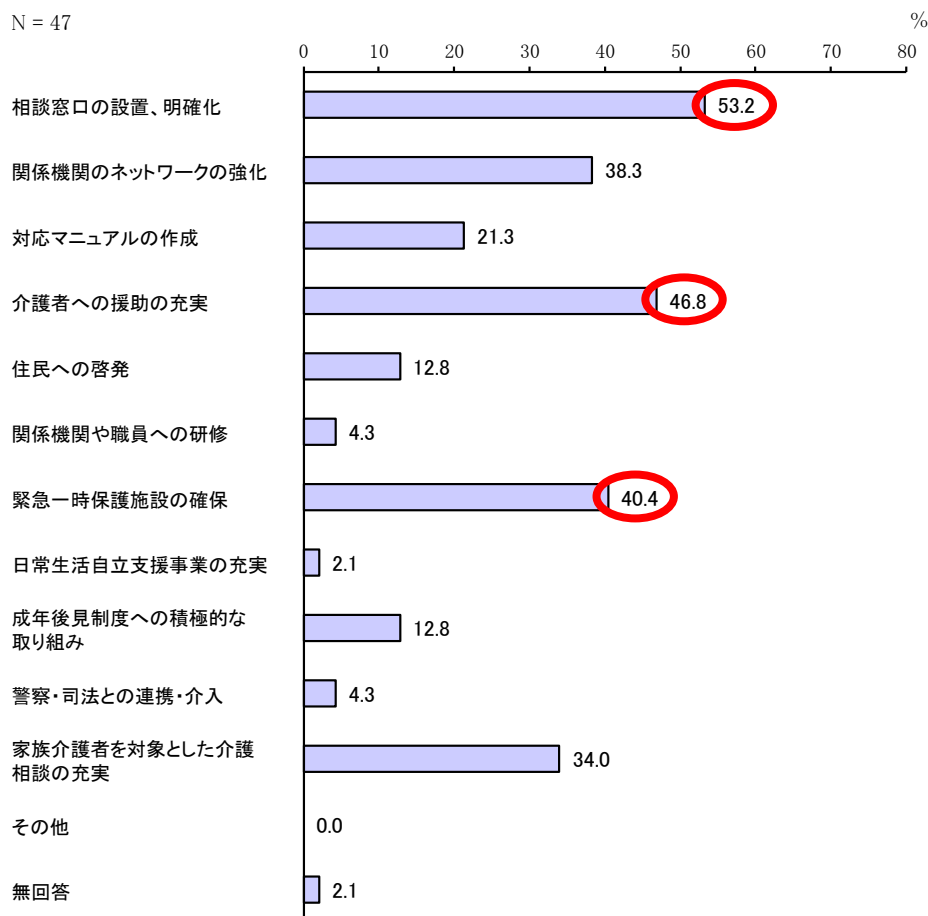
問 家庭内における高齢者虐待の事例を経験（担当）したことがありますか。

「ある」の割合が42.6%、「ない」の割合が53.2%となっています。



問 高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みはどのようなものだと思いますか。
(○は3つまで)

「相談窓口の設置、明確化」の割合が53.2%と最も高く、次いで「介護者への援助の充実」の割合が46.8%、「緊急一時保護施設の確保」の割合が40.4%となっています。



○調査結果のまとめ

◎介護の現状について

- ・一般高齢者においても、現在何らかの介護を受けている高齢者がおり、また、主な介助者については、配偶者が約3割となっており、この3割が老老介護であることが考えられます。

◎運動・外出について

- ・運動器機能の低下リスク該当者は、加齢により割合が高くなる傾向がみられます。
- ・閉じこもりのリスク該当者においても、加齢により割合が高くなる傾向にあり、閉じこもりを解消するためには転倒や足腰の痛みなどに配慮していくことが必要であると考えられます。

◎日常生活について

- ・趣味や生きがいについて、「思いつかない」の割合が2～3割となっています。趣味や生きがいを持った元気な高齢者が活躍する機会と場の創出が求められていると考えられます。

◎社会参加について

- ・地域活動への参加について、「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」への参加率が比較的高くなっています。
- ・地域づくり活動について、回答者全体で参加意向のある人は6割以上となっており、参加の機会があれば活動に参加する高齢者がいることがうかがえます。
- ・地域づくり活動への参加を呼び掛けるとともに、活動を通じて生活機能が改善した場合は、お世話役として活躍できるよう、継続的な参加につなげていくことが必要であると考えられます。

◎健康状態について

- ・主観的な健康状態について、自身の健康状態をよいと感じている人は7割を超えていますが、一方でよくないと感じている人は2割以上となっています。心身の健康を保ち、健康寿命を延伸していくことが重要であると考えます。

◎介護保険について

- ・今後必要と感じている介護保険外のサービスについて、見守りや声かけ、外出同行、移送サービスが多くなっており、今後の送迎・外出支援等の移動サービスの提供が求められていることがうかがえます。
- ・また、今後必要と感じている介護保険外のサービスについては、地区によって違いがあることから、それぞれの地域特性や課題を把握し、介護保険外のサービスを充実していくことが重要であると考えます。

◎介護者の就労状況について

- ・介護を主な理由として、仕事を辞めた人の割合は1割程度となっており、要介護3の高齢者を介護している人で、辞めた人の割合が高くなっています。
- ・仕事と介護の両立に効果があると思う事について、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」などの割合が高く、今後介護離職者をなくしていくためには、企業等への働きかけも必要であると考えます。

◎介護事業所の実態等について

- ・介護保険サービス事業を行う上での問題点や課題について、「人材（従業員）の確保が困難」の割合が約9割と高くなっています。介護従事者の働き方や処遇改善等についても検討を行っていくことが重要であることがうかがえます。
- ・行政に支援してほしいこととして、「最新の介護保険制度情報の提供」の割合が約6割となっています。
- ・利用者や家族からの苦情については、「サービスの質や内容に関すること」の割合が高く、質の向上を図っていくことが必要であると考えます。

◎ケアマネジャーの実態等について

- ・ケアプランで困ったこととして、「利用者本人と家族との意見が異なるときの調整」の割合が約7割と高くなっています。
- ・ケアプランを立てるにあたり気を付けていることとして、「本人の意見を大事にすること」の割合が高くなっており、本人の意思を尊重し、必要としているサービスを提供していくことが重要であると考えます。
- ・ケアプランに介護保険以外のサービスを取り入れているケアマネジャーの割合は約9割となっており、ケアプランの利用者の自立支援につながっていると思っているケアマネジャーは9割以上となっています。
- ・介護保険サービスの利用者は、要介護状態の改善や悪化防止を意識して介護サービスを利用しているかについて、意識していると感じているケアマネジャーは9割以上となっており、介護保険サービスについては、健康状態の維持や改善につながることがうかがえます。
- ・介護保険制度の中で問題と感じることとして、「急増する認知症高齢者への対応」の割合が高くなっており、今後の認知症高齢者対策が重要であると考えます。
- ・家庭内における高齢者虐待の事例を経験したことがあるケアマネジャーは4割以上となっています。
- ・高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みについては、「相談窓口の設置、明確化」、「介護者への援助の充実」、「緊急一時保護施設の確保」の割合が高くなっており、現在、社会的にも問題となっている高齢者虐待への対策にも十分に配慮していくことが重要であると考えます。

